

166
528

南禪寺獨案内

南禪寺獨家内

南禪寺

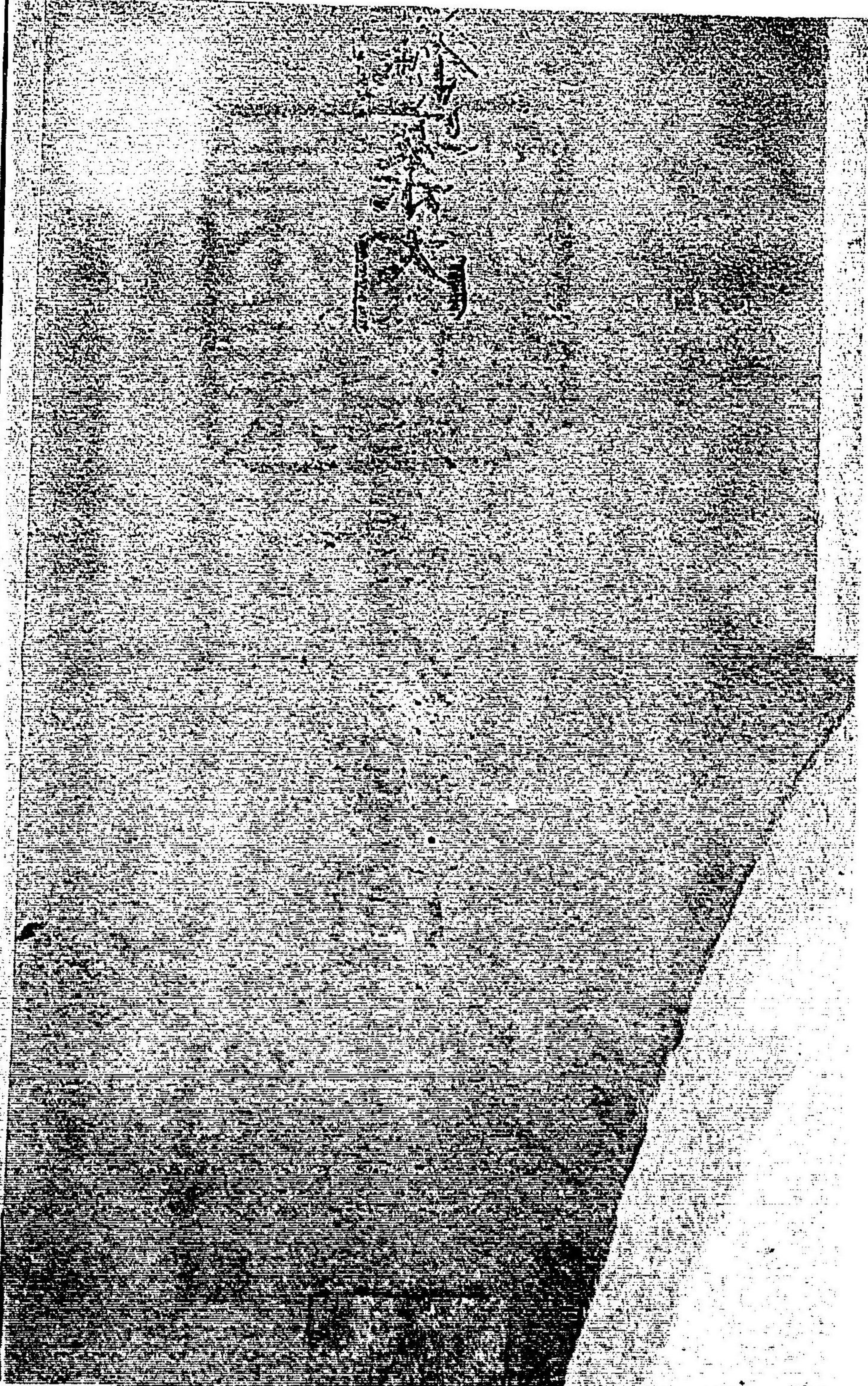
東は彌生谷に寄り西は粟田に境ひ南は三條殿上ヶを限り北は若王寺
東谷岡崎と接す此地を總稱して南禪寺といふ元南禪寺領八百九十
二石の内なる今これを南禪寺町といふ

總門前の細流といふ南禪寺記に云少林院と慈聖院の間を小草川とい
ひ後迦西雲の後を大草川といふ云々

白河の末の草川冬かれてはそき流れに千鳥なくなり
次笠内大臣
景樹翁

中の丹後屋

草川に沿ひたる北側の家なり元湯豆腐の名物なり



總門

入口の門をいふ元壹町半はかり東にありしを疏水の爲に茲に移す

松林

門頭一帯の青松なり山陽詩あり

第二橋東雨後泥村園門巷路西東遇人休問南禪寺一帯青松路不迷

有川亭

總門を入り取り付の茶店なり庭園白河に沿ひ風光よし東山煎餅に名あり

多福庵

有川亭の東なり是亦庭園白河に沿ふ樓あり遠く黒谷獅ヶヶ谷等の眺あり多福納豆ありひ米糰等を販く風味頗るよし

梅林

多福庵の東に隣る瓢亭の別墅なり梅は勿論蝨によるし

牛部屋

梅林の東にして元南禪寺施茶所なり此家の茶室を牛部屋といふ著名なり庭は大草川を孕み風韻あり水鶏を聞によるし

可水亭

牛部屋の東南斜にあり小草川に沿ひ新吉水蹴上ヶ等の眺望頗るよし

瓢亭

牛部屋の東に隣る此家外標は采椽不斷の素營なるも壺中に山川を縮め古色寒を生するの趣向は來客賞歎せざるなし器具清雅調理澹泊家産には煮拔玉子納豆等に名あり此家の古格として絃歌を弄し又は夜間の宴遊を謝す其他祖先の家規を奉し幽逸澹瞻の風多し茶寮には一靜庵松濤及新亭あり殊にくす屋とて菲茨不剪の土階あり綠樹陰を重

ね布泉掬すへし四時の清遊によるし

奥丹

瓢亭の東隣にして是亦湯豆腐の名家なりしも今は某氏の別業となる望船亭

奥丹とインクラインの間にある茶亭なり疏水上下の船を賑るによるし草川餅の名品あり

水利場

インクラインの右手にあり水力を利し陸上船を上下せしむるの妙用又は都城不夜の原動力は此所にあり衆庶の縦覧を許すインクライン

陸上船を上下せしむる所とす稀代の妙技なり

大久亭

大和田樓

インクライン架橋東端の茶亭なり舟の上下を眺るには最も便利なり大久亭の東隣なり樓あり眺望佳なり

華表樓

大和田樓の東向にあり有名なる祇園鳥居本の別業にして林園幽雅亭席清麗近く黒谷真如堂遠く加茂北山等の眺望あり調理の風味大によし雲丹の佳品を用ゆ

西福寺

大和田樓の東にあり西山派永観堂に屬す本尊阿彌陀佛は慧心僧都の作にして法然上人の臨終佛といふ玄智和尚の開基なり門前観音堂あり又上田餘齋の墓あり上田氏名は秋成無腸ともいふ大阪の人和歌を善し國書に委し煎茶一家をなすといふ

順正書院

西福寺の東一町にあり名醫新宮氏の別邸なり涼庭山人詩あり

薄田購得十弓餘茅屋藏書八九車引水造池留隙地半邊植藥半邊築

綾戸明神

順正書院の東象龍池の邊にあり當山の鎮守にして十境の一なり祭神は

文應帝の牛飼人綾戸小路に住し常に醇酒を造りて獻せしが死して靈あり土人小祠を建てこれを安置すといふ

象龍池

中門前の池をいふ瑞龍山に因み此名あり十境の一なり

天下龍門

記に云池の右なる門を云應永丁酉七月二十六日掛額辛丑二月源義持

揭五山之上換天龍入法界門

牧護庵

池の北邊にあり庭園頗幽邃なりしも今は大に荒ひたり約翁和尚の塔

所なり塔銘曰師諱德儉號約翁相州鎌倉人云々德治丙午陞補京師建仁

後宇多天皇夙慕師道詔入西郊之別宮咨扣玄要奏對契旨以故開國

藤良教華苑一區以爲壽藏之地揚庵曰牧護

金地院

池の南にあり開祖は大業德基禪師中興は圓照本光國師なり開祖國師

は義持將軍の歸依僧にして本光國師は家康將軍の顧問たり本光國師

以來五山僧録の顯職は當山の常任となる本堂は伏見桃山の舊殿にし

て建築美術の粹ともいふべく其構造の妙技は京都稀有の傑閣にして

後世の模範なり八窓として小堀遠州好奇の茶亭あり園林は鶴龜の庭是

亦遠州の築く所なり東照廟は神君臨末國師に對し後世臣子をして參詣せしむべしとの遺命により建るところなり委くは別に緣起あり俊伯英和尚の塔あり英は入唐の僧なり應永十八年八月遷寂す

大寧院

金地院の南にあり元寺錄巨多を有し金地派の一院なりしも今は廢して某家の別墅となる境致幽雅名石數箇あり子規を聞によろし

第一樓

東照廟の東元大寧院の南にあり壺中の規模宏潤茶寮數字山あり水あり殊に梅螢萩雪等四時の觀を備へ流水の眺望尤もよし

正因寺

第一樓の東北にあり境内吒呌尼天は衆庶信仰のかゝる所なり

眞乘院

正因寺の西北にあり金地派の一院にして水鶏を聞によろし

天授庵

眞乘院の東山門の南にあり開山大明國師の塔所なり細川家の廟にして幽齋公以後歴代の祖廟を存す京極安知の塔あり園林の風光は山内の第一位に居る和漢禪刹次第曰開山無關和尚諱普門諡佛心禪師大明國師云々大明國師行狀曰嘉元癸卯冬勅諡佛心禪師元享癸亥冬勅諡大明國師然於當山塔未有也巳卯春師練聞曆應帝詔賜塔基於山之青龍首矣庵曰天授塔曰靈光云々

山門

天授庵の前にあり五鳳樓とも云藤堂高虎大阪從軍戰没者の爲に建るところなり慶讚の疏は金地本光國師の自筆あり金地院藏す釋尊金泥の立像は

寛元帝の等身なりとぞ

大燈籠

山門の階下にあり高貳丈餘軸長五尺六寸回り壹丈七寸臺六角徑八尺三寸土臺徑壹丈壹尺寛永五年佐久間大膳亮勝之の寄附なり

大白檀

山門東面兩側にあり稀代の名木なり

佛殿

法堂を兼ね山門と方丈の間にありし巍然たる殿堂なり是禪林の主位なり抑本院の濫觴を原るに當地元三井の別院にして最勝院又は最勝光四天王寺と號し道智僧正三井長吏此所に住す其後年を渡たり弘安年中

太上天皇龜山院此地の靈勝を愛し離宮を營み玉ふにより宮外には公卿

の館變を列らねたり然るに正應の初にあたり宮中に怪あり是最勝院僧正此地を秘惜して障碑をなすなりと故に普門無關和尚勅を奉し禪侶を率て宮中に安居せしに妖怪頓に止む

上皇敎感普門を拜して衣鉢を受け又宮を革て寺となし普門和尚及祖圓和尚を兩開山とし玉ひしといふ佛殿は疊華室又は金剛王寶殿の名あり本尊は釋迦牟尼世尊脇士は文殊普賢金剛力士脇檀の南には嗣山大帝大權修理菩薩護法明王

龜山天皇の尊牌又北方には達磨百丈臨濟の三祖を安置し規模宏壯威儀嚴肅の寶殿にして豊臣秀頼の再建せし所なるも明治二十八年一月回祿の爲に烏有に歸す

南禪院

佛殿の南羊角嶺の麓にあり

法皇離宮の跡なり

天皇御法體の宸影を安置し奉る、本母は釋迦佛なり、玉池あり、龍を象と
る、曹源と名く寺院の北砌牡丹花あり、御愛なり、御製の詩あり、帝明高年
軒等の名室あり、井を澗碧といふ、又住吉の松、龍田の紅楓、難波の芦、歌津
の蝦蟇等の名あり、院上の山其形摩尼寶の如し、神龍此に類すと、此院南
禪寺の濫觴にして今は別院とす、禪林寺の南にあたれるを以て、南禪と
稱へ玉ひしといふ。

龜山帝陵

院内東南の山麓にあり

大宮院陵

天皇御陵の傍にあり

羊角嶺

院の西にある凸嶽なり、鐘樓あり、銘は菅相公の筆跡といふ、當山十境の
一なり、

合欄橋

門頭の幽谷曹源水と駒瀑泉と合する所に架し、幽邃生寒の勝地、是亦十
境の一なりしも、疏水の爲に其形を變し今は無し、

獨秀峯

院後層出の蒼嶺にして、當山の主位にあり、寺記に云天下の望なりと是
亦十境の一

蘿月菴

獨秀峯の邊にありしと今は無し

駒ヶ瀧

獨秀峯の下巨巖岨ち老樹森々たる所の懸泉をいふ

僧正祠

瀧の側にあり道智僧正を祭る當山の護法神なり神仙の佳境といふ

し

藏春峽

瀑の傍にあり

愈好亭

共に瀑の傍にあり十境の内なるも今は荒陵に屬す

壑雷橋

元瀑の傍にありしも是亦其跡を見ず

俊明極塔

元少林庵にあり元人にして歸化す楠廷尉歸依の僧なり

方丈

佛殿の東にあり毘盧頂と號す

後陽成天皇宸殿を賜ひしとぞ東の間鳴瀧の圍井に花鳥等は古法眼元信の筆廿四孝并西の間花鳥等は狩野永徳の筆三の間水呑の虎は探幽の筆痕にして其名世に高し

龍淵室

住山の居室をいふ

簷蔔林

方丈の北にあり衆寮なり

禪堂

簷蔔林の北に隣る此に亦

天皇御安禪の像を安心奉る

景烈祠

簷荷林の東にあり本多佐渡守正信の碑屋なり額は雪峯の筆篆額は石川丈山銘は林道春といふ

歸雲院

方丈の北にあり祖圓和尚の塔所なり

法皇御歸依厚かりしとて庭園の風致頗る佳なり和漢禪刹次第云南禪塔頭南禪二世規菴和尚諱祖圓云々南院國師規菴和尚行狀云師諱祖圓信州水内郡長池人也云々正應間

龜山太上皇素向佛乘力探祖道改此山皇基爲禪刹詔無關和尚開山主之參隨學徒二十員師表率矣關董衆未暮忽疾_二亟法皇駕幸丈室詔問和尚有不諱繼者孰能當之關奏云祖圓書記可矣即詔居方丈寔正應四年十二月師年三十也山號龍安寺名南禪地靈人傑英雋畢集師勸土木之役未改_二其殿宇崇成中安儼然丈六金羅傍列四菩薩八力士皆出師之願力成就也

叢林宜有者悉備云々正和二年四月初二夜泊然示寂壽五十三云々葬寺北歸雲

正的院

歸雲院の北西禪堂の北にあり是亦荒陵に屬す

寧一山塔

元雲門庵にあり宋人にして歸化す妙慧弘濟國師の證號なり

聽松院

僧堂の北にあり澄清拙和尚の塔所なり林泉は相阿彌の作風光絶佳なり細川滿元の再建足利義教全義晴織田信長蒲生氏郷藤堂高虎等皆茲に假住せしと松井佐渡守は當院の檀越にして院内墓所を存す

禿尾長柄帚云惠鑑明照禪師道行記云師諱靈彦字希世自號村庵云々文安四年丁卯祝融發_二龍興庵延及本寺龍興於是絕矣享德二歲癸酉師五十

一購其地創大鑿塔地維大鑿滅後一百十五年也舉世僉曰希世大鑿後身也扁以聽松々々乃悅道所嘗號尋因舊號藉丹之田附焉爲悅道追孝塋云云文明十五年師遷龍阜聽松々々亦向罹煨燼兵不止十餘年待得太平拾砂礫披蒙幕再造如故煒燁聲飛之美池亭泉石倍于前矣

慈氏院

聽松院の西にあり元北門の傍にありしも近年語心院を廢して茲に移す和漢禪刹次第云南禪塔頭義堂禾上諱周信嗣夢窓土州人瑞珠軒柏堂禾上含雪軒涌雲和上云々應仁記云南禪寺五十ヶ所の塔頭は星をならふる如く也云々其塔頭の慈氏院十刹も不及とこそ申しけれ

信義堂塔

元慈氏院にあけ周信名は義堂夢窓國師の法子なり

尊良親王墓

永觀堂門前田圃の中にあり

南禪寺 在禪林寺南拾芥抄云龜山院開山普門

倭漢禪刹次第云瑞龍山太平興國南禪々寺上三門此額永仁九年癸巳十一月

日檀那 金剛眼住持祖圓

天下龍門 總門揭五山之上額 毘盧頂上 方丈 金剛王寶殿 佛殿別有新佛殿

五鳳樓 三門閣上

南禪寺者爲勅願皇居之間可爲五山之上者也

至德三年七月十日

左大臣 台列

十境

獨秀峰 主山駒瀨上一峰 羊角嶺 天授東嶺 歸雲洞 拳龍池 曇華堂 法堂

鎮春亭

翰林五鳳集 鎮春亭琴叔 拳龍池畔案山前亭子鎮春輝九天文應上皇舊恩

渥花紅柳綠萬新年

蘿月菴 在獨秀峯邊 峻戶廟鎮主愈好亭在東 籬荷林 宋寮
諸堂并寮舍

一華五葉 祖師堂 顯應靈祠 土地堂 近水院 龍淵室 方丈 公生明 院 大羅
漢寶閣 閣上有五 選佛場 大僧堂 雷音 茶堂 表率寮 首座 望仰寮 后 龍蟠寮
記 虎嘯寮 東藏主 結集寮 西藏主 桃洞寮 維那 擇木寮 侍香 思忠寮 侍客 內史
寮 侍狀 小玉寮 侍藥 景雪寮 知客 紫竹寮 天銘 鐘樓 化壇 延壽堂 雪隱 四淨
諸境致

合澗橋 三級岩 不動水 卅六橋 則川水 赤欄橋 大 草河 神仙
佳境 藏春峽 壑雷橋 已上三處在獨秀峰邊 霜花岩 牢度梯 上 生獨木
橋

南禪寺記 玄太上皇龜山院弘安中置離宮於此地 有二宮今大觀本殿以雙松地乃
一條左大將舊宅西面馮次有紫樓御所南面馮今中坊也其中間有近水院
溪水自南東落西流出金榜宸筵三字龍淵室舊址曰下宮金泥宸筵有三字
正應之初物恠于宮中 弘安已后宮外公卿皆卜地也館運要故最勝院僧正
道智昔以樓此地世稱駒僧正其監秘情此地作院

人廓暇安寢顯密諸師下及呪術巫祝百計拱手矣四年有勅召東瀛釋普門
開山無關和尚 奉命率二十禪侶安居宮中九旬祖圓為之冠 規建和尚 無別
院大明國師

行唯二時齋粥四時坐禪而已物怪匿跡上下安寢容戚之餘草宮為寺 安居
華下宮為寺所謂龍淵遂有旨創建大佛殿上皇親御錦氎代簣圓差其肩者
室階壁圖器皆宮製 是歲辛卯也後二年落成署曰金剛王寶殿土地曰顯應靈祠祖堂曰一華五
葉 三級共御染 夾大殿而宇左右也祠南直大雲之雲堂々之北直歸雲之門

殿之後階直入曇花堂々之後階峻峭向上者曰三級岩 龍淵室舊址
之照連構 輾十笏之堂々高揭龍淵南向焉 所謂下宮者下有一大石老龍屈膝
說法之堂 者異位新架大屋曰毘盧頂西北向 乾峯和 庭中有大池橋四隅栽四松南偏

有柳如絲曰官柳龍淵之北有講茶之堂曰雷音 宋寺丞 後有二階板葺宜
即之聲 聽雨也 宮製未葺軒 階北有井名不動水汲用無竭 龍淵不動二層同
大宋徑山丈室 雷音之下

有橋曰卅六巨級名也橋下衆寮曰詹荷林 夢窓 國 林之南與曇華相距三丈
餘有小阪上通玄關々下有小橋架小廊々之北五葉之右有寮元一字三室

皆南向焉中日結集次日景雪又次架一閣曰大羅漢寶閣金榜大羅漢寶閣
 下二室東扁首座西揭維那東西班立相揖而出矣下有一小坂少北而右紫
 竹寮通則川水居故曰則川水即今維那寮水坂之下一字三室上曰望仰
 中日龍蟠下曰虎嘯宮製牛革虎之次有道新大殿出入之自大倉前通北門
 米倉東向道之次架僧堂曰選佛場一山國印書攝之次橫廊于井故黃
 門侍郎源有房鄉所鑿也水洲而甘井今在選佛場之乾隅廡之次
 一字二室東直歲西淨頭次潤司淨潤之閣道通天授前昔曰東之次橫道北
 通少林舊名勝林草河真觀上人故居也草河初加四後曰大草河小道之中
 有心地要門位即榜伽門道通勝林潤之西道之次有正宗菴南與浴室相
 望其間有一大池曰象龍亘南北前築案山以鎮風水杉檜森列有亭曰鎖春
 竺仙天書榜扁傍有綾戶廟在亭在殿世傳文應皇帝之嗣牛人居綾戶小
 丙子伯英俊和尙住山之二年建大祠移此正位而夾路植松兩行作山門境
 致綫路即今通西北者西去惠亮塔數步壇舊在耕田中為不食地今牧園即
 壇址俗呼靈從亭前少北而右池向前履其門曰天下龍門丁酉七月五日應水

前于池外俗曰外門曰牌門入門直新立山門曰瑞龍山太平興國南禪寺
 上皇命建治帝親染也山洞曰龍安聳五鳳樓於其上安置釋迦金泥立入門
 直前有新佛殿龍湫和尙建梁塵龍吾本師迦文尊于中而左醫王右逸多
 大相源義滿拾金泥之坐像自新殿之後東方步坂既則橫架之廊于南北
 而東仰之所謂金剛王寶殿屹立焉勅願釋迦文佛坐像四善六柏兩行森々
 乎殿之庭而坤隅有御梅也其南北各三柏極橫廊之南而東行左顯應之洞有
 小坂少進得亭子曰愈好即之書與曇華南扉連構亭南粉壁間焉自亭而東
 向登陟數量有門直向毘盧頂西趾易地源相公義持加一字曰毘盧頂上門
 之左腋曰擇木今之下一字三室皆西向北曰小玉中曰思忠南曰內史亭直
 其北左右皆松前架長廊于赤欄橋昔宮製朱其欄故呼左通上生之院多窓
 國師塔廊之北一字二室都總居西監院在東其西為池又之西地漸卑有戲
 樓羊角之次有庫院曰公生明與所謂選佛之場相望庫之前少折西南向有
 天授之塔開山塔塔之上東嶺曰羊角有鐘樓曰天銘故管相公銘鐘也北野

増鏡云 龜山院 禪林寺殿をはかはしました時より禪院になされ南禪院といふは是なめり

管見記云弘安六年七月十三日被參禪林寺殿 新院大宮院新賜明門院等御所也
翰林五鳳集 春晩花過客至會南禪仙館彦龍 春在青山九鎗中京塵稅駕問詩翁花應羞引世人至萬綠樹頭昨夜風

後宇多院南禪寺院におはしましたりけるに聞郭公といふことを題にてよませ給けるにつかうまつりける
またれけるけふとしりてや時鳥山のかひあるねをは鳴らん 元盛法師

南禪寺獨案内終

明治廿八年四月一日印刷

明治廿八年四月五日發行

京都市上京區吉田町第廿三番第壹號寄留

福井縣平民

編集者 大 都 城 一

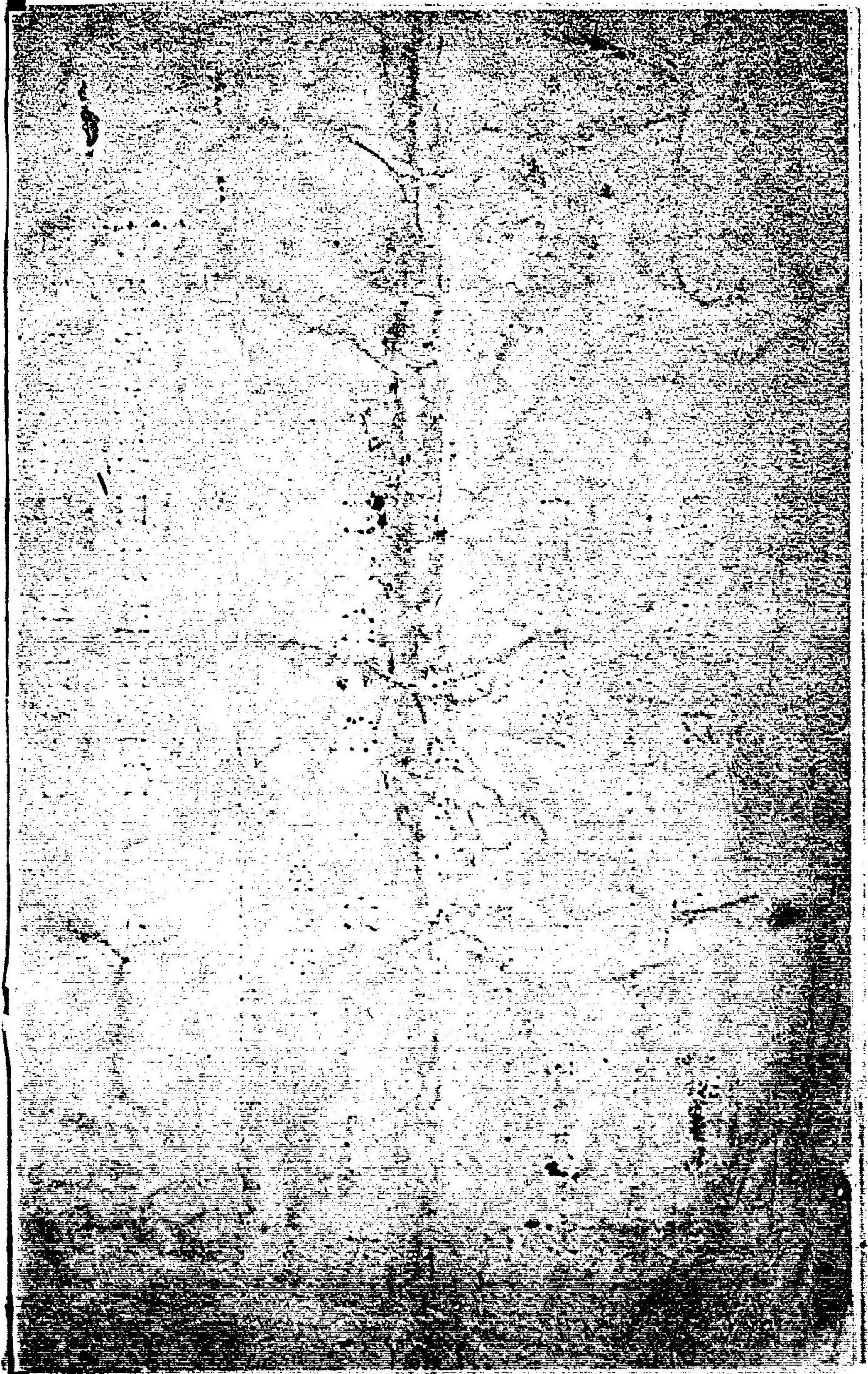
京都市上京區淨土寺町八番戸

京都府平民

印刷兼發行者 菅 陽 八 郎

京都市下京區富小路四條下ル徳正寺町八番戸

發行所 實 業 社



019777-000-1

特14-351

南禅寺独案内

大都 城一/編

M28.4

ABG-0590

